

今年度も様々な行事が行われております。今回はその中から本会の目玉事業である「やまびこフォーラム」、兵庫県で開催された「全国研修交流会」、「諏訪支部の活動報告」をお伝えします。

「やまびこフォーラム 2019in 木曽」開催

10月26日(土)と27日(日)に「やまびこフォーラム in 木曽」を開催しました。その様子をご紹介します。

10月26日(土) やまびこフォーラム1日目

◆フォーラム 基調講演



松本大学名誉教授の佐藤博康先生をお迎えし「日本遺産の地域活性化への波及とインバウンド観光」と題して、ご講演をいただきました。

佐藤先生は、日本遺産に指定された中山道の妻籠宿(南木曽町)を例に挙げて「住民たちが町並み保存を」という価値観を共有し、長年取り組みを続けていることを評価しました。また「インバウンドが増加しているのは、単に古い宿場の町並みを見に来ているだけではなく、その土地の自然、そこに住む人々、その暮らしの印象を求めて来ている」として、地域での人づくりが大切だとお話いただきました。

「地域づくりは人づくりが一つのポイント」との言葉に参加者が大きくうなずいている様子が印象的でした。

◆フォーラム 事例発表

①木曽町日義の祭り

【美しき里 わんぱく村 村長 巾 恒美 様】

木曽町日義では、日本遺産に指定されている「らっぽしよ祭り」や昨年100周年を迎えた「宮ノ越長持行列」が地域行事として継承されており、これらの祭りが今後も受け継がれ、地域の活性化につながるよう地区の祭り街道に弓張提灯を設置していることなどが報告されました。



②木曽路の眺望景観の取組

【木曽広域連合 竹原 司 様】

多くの観光客を木曽地域に迎えるため、国道19号などの広域公共サインの整備をはじめ、地域の眺望景観整備に積極的に取り組まれている事例について報告されました。



③欧米人はなぜ馬籠峠を

テクテクで越えるのか

【(公財) 妻籠を愛する会

理事長 藤原 義則 様】

妻籠宿に外国人旅行者が増えた背景にある、地域が一体となった町並み保存の取り組みやインバウンドの現状などが報告されました。



◆交流会

交流会に先立ち、宮ノ越^{ながもち}長持保存会の皆様に「長持」を実演していただきました。

交流会では、木曽のスローフードを味わいながら、地酒をいただき、地域づくりについて会話を弾ませました。途中、南木曽町の伝統芸能「さいとろさし」や全国に広く知られている、木曽節と木曽踊りが披露され、最後には参加者全員が大きな輪を作って踊り、交流会は大いに盛り上がりました。



木曽のスローフードでおもてなし



伝統芸能「さいとろさし」



木曽節と木曽踊り

◆星空観察会

交流会の後は、木曽の夜空に瞬く秋の星を、「木曽星の会」会長の清水 醇^{じゅん}様の説明をいただきながら観察しました。

10月27日(日)やまびこフォーラム2日目

◆現地見学会

2日目は、妻籠宿へ移動し、妻籠宿本陣や脇本陣奥谷、歴史資料館等で案内人から説明を受けながら、中山道を歩き、町並み保存の取組を見学しました。

朝方は肌寒かったもののお昼ごろには心地よい秋風が吹く中、多くの観光客、特に外国人観光客が多く訪れていることを実際に見ることができました。



やまびこフォーラム 2019in 木曽を終えて

今回、木曽地域で2日間にわたるやまびこフォーラムに、全県から参加いただきありがとうございました。また、管内の町村や支部会員の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

参加された方々の地域づくりの活動の参考に少しでもなればうれしく思います。

なお、当日の様子はフェイスブック※にも掲載しておりますので、是非ご覧ください。

※フェイスブック内で「地域づくりネットワーク長野県協議会」を検索

第37回地域づくり団体全国研修交流会兵庫大会

11月9日～11日の兵庫県で開催された「第37回地域づくり団体全国研修交流会兵庫大会」に酒井哲夫会長、ずくだせネット会長の中澤信敏さん（上田支部）、本部事務局の今井匠の3人が参加しました。大会のレポートを今井よりお届けします。

全国の地域づくり関係者が集まり交流する「地域づくり団体全国研修交流会兵庫大会」に参加しました。大会は大きく3つのプログラムに分かれています。各地域の取組を学ぶ「分科会」、参加者と意見交換する「全体交流会」、大会の振り返りを行う「全体会」です。

私は兵庫県多可町の「ホール文化と地域づくり」の分科会に参加しました。

ホールの運営に携わる住民の皆様からは、「田舎にも一流の文化を体験してもらいたい。」「住民が主役のホールをつくりたい。」などの熱い想いをお伺いしました。その他にも、杉原紙の手漉き和紙づくりなどの貴重な体験ができました。



全体交流会や全体会を通じて、地域づくりに携わる多くの方と出会うことができました。全国から集まった様々な方の価値観に触れることができたことが、大きな学びになりました。

全国研修交流会は令和3年度に長野県で開催の予定です。会員の皆様のご協力もいただきながら準備を進めたいと考えておりますので、よろしくお願いします。



お揃いのハッピーでお出迎え



ベルディーホールでロビーコンサートを体験（分科会）



全体交流会で提供された地元食材をふんだんに使った料理

支部活動報告【諏訪支部】

サイエンスカフェ「森・里・川・湖そして人のつながりを考えよう」開催

諏訪支部では、10月20日（日）に「森・里・川・湖そして人のつながりを考えよう」（共催：諏訪湖創生ビジョン推進会議）と題したサイエンスカフェを茅野市「ゆいわーく茅野」で開催しました。

諏訪地域では、八ヶ岳から諏訪湖に広がる豊富な自然資源を活かし、豊かな生活と独特の文化が育まれてきましたが、近年、管理の不足などにより自然とのつながりが分断され、その恵みが損なわれつつあります。

今回は、諏訪湖や琵琶湖の事例を通じて、改めて森・里・川・湖のつながりや、活力ある地域づくりについて考えようということで、諏訪湖については環境保全研究所の本間 健 部長と宮澤正徳 主任研究員から、琵琶湖については総合地球環境学研究所の奥田 昇 准教授から話題提供をいただきました。

奥田准教授率いるプロジェクトでは、琵琶湖に流れ込む河川の流域の住民と連携し「二ホンアカガエル」の数を目安に、環境保全の取組を行っています。カエルの数を「ものさし」にして環境の状態を「見える化」することで、活発な地域活動が促進され、結果的に生態系の回復など琵琶湖にも好影響を与えているそうです。まさに、森・里・川・湖そして人のつながりを実感する事例です。

話題提供の後、会場との活発な意見交換が行われ、アンケートでは「参考になった」「講師と気軽にディスカッションでき良かった」等のご意見をいただきました。

